

平成27年8月10日
北海道旅客鉄道株式会社

留萌線（留萌・増毛間）の鉄道事業廃止について

留萌線（留萌・増毛間 16.7km）は、大正10年に開通して以来、90数年の永きにわたり地域の重要な交通手段として皆様にご利用頂いて参りました。しかしながら、現状につきましては、輸送密度は弊社発足以降、昭和62年度の480人から平成26年度には39人と12分の1以下に減少し、また、収支状況も営業収入は平成25年度で7百万円に対して経費は2.5倍近く要していると推計され、差し引きすると年間約1億6千万円以上の赤字となっており鉄道が地域の交通手段としての役割を担うには大変厳しい現実となっています。

また、当該線区の箸別・増毛間では近年融雪期に斜面から線路に流入した雪・土砂等により列車が脱線する事故が二度発生しています。その他にも、これまで大雨等による土砂崩れが度重なり発生している災害線区であるため、徐行運転や天候状況による運休処置等を余儀なくされているところであり、将来にわたって安全を確保するためには数十億円に及ぶ多額の防災工事費が必要となる見込みであります。

これらのことから当該線区の今後について社内で検討を重ねて参りました結果、鉄道を維持していくことは困難であるという結論に至り、本日、平成28年度中の留萌線（留萌・増毛間）の鉄道事業廃止について留萌市長及び増毛町長にご説明させて頂きました。

なお、鉄道事業廃止後の沿線の地域振興については、弊社としてもできる限り協力して参る所存であります。

留萌線（留萌・増毛間）の概要

1. 留萌線の沿革

留萌線は、留萌・増毛間が大正10年11月5日に開業し、深川・留萌・増毛間が全通しました。当時は留萌港からの石炭、木材、海産物の積み出しが盛んで、留萌線はその輸送で活況を呈していました。しかしその後の石炭産業の衰退による沿線の過疎化と自動車の普及により鉄道の需要が大幅に減少し、昭和53年には貨物輸送が廃止になり、昭和55年に急行列車も営業廃止となっています。

また、その94年に及ぶ鉄道運行の歴史の中、昭和21年3月には、留萌発増毛行きの列車が礼受・舎熊間で季節外れの大雪による吹き溜まりに立ち往生し、排雪作業ののち運転を再開しましたが、信砂川橋りょうに差し掛かった時に最後尾の車両が脱線し河川に転落し、旅客17名が死亡し67名が負傷するという痛ましい事故が発生しています。

2. 留萌線（留萌・増毛間）の現況

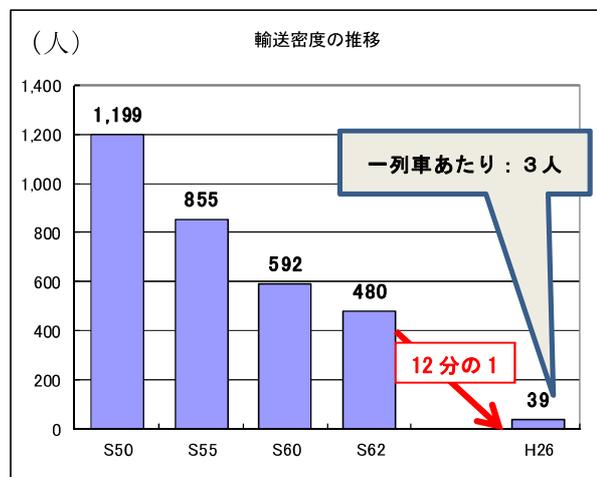
留萌・増毛間においては沿線地域の過疎化、モータリゼーションの進展、高校の閉校など線区を取り巻く環境変化から利用者が減少の一途を辿っており、地域における鉄道のご利用はごく限られたものとなっています。

輸送密度は弊社発足以降、昭和62年度の480人から平成26年度には39人と12分の1以下に減少し、弊社の営業線区の中でも極めてご利用が少ない線区となっています。

また、収支状況も営業収入は平成25年度で7百万円に対して経費は2.5倍近く要していると推計され、差し引きすると年間約1億6千万円以上の赤字となっています。

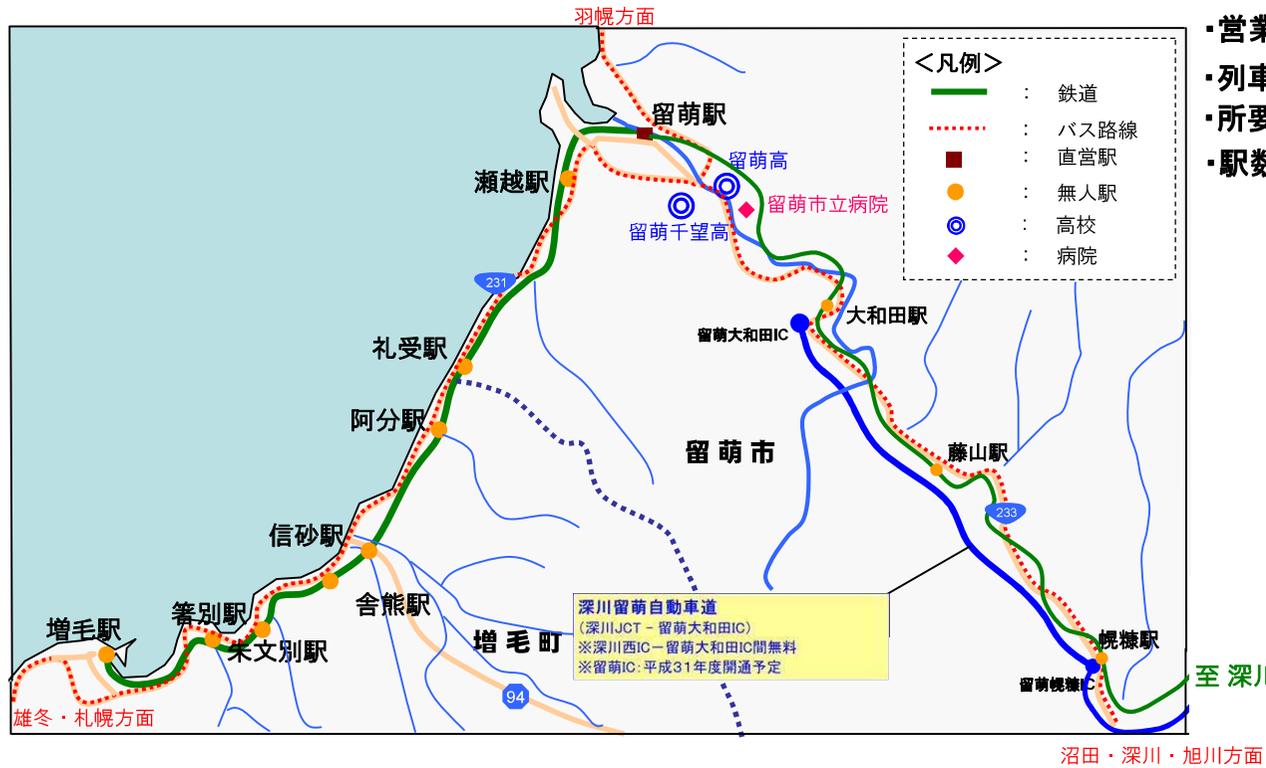
さらに、当該区間は沿線の地質的特徴により災害の多い線区であり、特に箸別・増毛間においては融雪期である平成17年3月と平成24年3月の二度にわたり斜面から線路に流入した雪や土砂等により列車脱線事故が発生しています。その他にも、これまで大雨等により度重なる土砂崩れが発生しており、徐行運転や天候状況による運休処置等を余儀なくされている状況であり、将来にわたって安全を確保するためには数十億円に及ぶ多額の防災工事費が必要となります。

また、当該線区には並行して路線バスが運行しており、鉄道が一日上下13本に対し22本と鉄道よりも多い本数を運行し、留萌市内の市立病院や高校まで運行されていることから沿線住民の利用も多く、路線バスが重要な生活の足となっています。



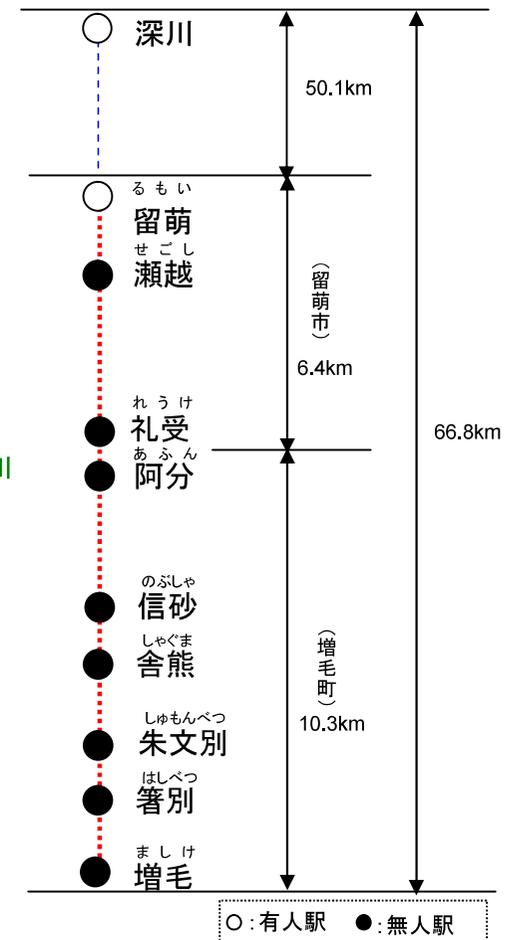
留萌線（留萌・増毛間）沿線の概況

■沿線地図



■鉄道諸元(留萌・増毛)

- ・営業キロ 16.7km
- ・列車本数 13本(上り7本、下り6本)
- ・所要時分 23～31分
- ・駅数 9駅(有人1駅(留萌駅)、無人8駅)



■沿線自治体の人口(人)

	留萌市	増毛町	計
H27.1	22,957	4,893	27,850
S62.3	34,462	7,990	42,452
対S62	67%	61%	66%

※出典: 住民基本台帳人口